

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)

【公開番号】特開 2004-213648 (P2004-213648A)
 【公開日】平成 16 年 7 月 29 日 (2004.7.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-029
 【出願番号】特願 2003-422254 (P2003-422254)
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 6 T 7/20

G 0 6 T 1/00

H 0 4 N 7/18

【F I】

G 0 6 T 7/20 B

G 0 6 T 1/00 3 3 0 B

G 0 6 T 1/00 3 4 0 B

H 0 4 N 7/18 G

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 8 月 26 日 (2004.8.26)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 9 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 9 4】

従って、フレーム間差分処理ステップ 1 1 0 によって、差分が多く存在する位置 (x_1 , y_1) が検出される。

なお、本実施例では、式 (2)、(3) で表される通り、 x_1 もしくは y_1 を $x_0 - d < x_1 < x_0 + d$ 、 $y_0 - d < y_1 < y_0 + d$ と変化させた場合に、 $x_1 < x < x_1 + d$ 、 $y_1 < y < y_1 + d$ において $h_x(x)$ 、 $h_y(y)$ の累積値が最も大きくなる x_1 、 y_1 を求めている。これに代わり、 $x_0 - d < x_1 < x_0 + d$ 、 $y_0 - d < y_1 < y_0 + d$ と変化させる過程で式 (2) の $h_x(x_1 + i)$ 、 $i = 0 \sim t_x - 1$ 、式 (3) の $h_y(y_1 + j)$ 、 $j = 0 \sim t_y - 1$ が所定のしきい値を超えた場合に式 (2)、(3) の計算を中止し、その時の x_1 もしくは y_1 を 侵入物体位置の修正位置としても良い。この場合、所定のしきい値とは、例えば累積値の最大値 $255 \times (dy + 2d)$ (y 軸に対しては $255 \times (dx + 2d)$) の 30% の値を設定する。この値によって検出される範囲は、差分の最大累積値の 30% 以上の差分を含む部分となり、これによって式 (2)、(3) の計算量を減らすことができる。